

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和4年度 福島県意見交換会（第1回）議事概要

令和4年8月8日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和4年8月8日（月）14:00～15:30

【場 所】復興庁福島復興局 5階会議室（福島）／オンライン

【出席者】

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社東邦銀行／福島県／国立大学法人 福島大学／一般社団法人 ふくしま連携復興センター

＜今年度の意見交換会テーマに関する団体（主団体）＞

株式会社Jヴィレッジ

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 福島復興局

＜事務局＞

株式会社JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁より、「新しい東北」の取組としては、地域において今できることを地域の皆様としっかりと考え方ながら進めていきたいと考えており、未来思考の会議になるよう忌憚のないご意見をいただきたい旨、挨拶した。

2 各団体の活動紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1～資料5）をもとに取組を紹介した。

3 令和4年度のテーマ、取組内容等について

事務局より、資料1をもとに今年度の取組テーマ、取組内容案等を説明した。また、株式会社Jヴィレッジより当団体の活動内容について説明した。

4 意見交換

（1）令和4年度のテーマ、取組内容案について

令和4年度のテーマを「未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり」とすることや、実践の場の取組として、Jヴィレッジにおいて、若者による議論の場を設けるという方向性について合意が得られた。意見交換においては、協議の場を、大人と若者が価値観同士をぶつけ、新しい価値観を協同して生み出す場としてはどうかといった意見や、地域課題をバトンに見立て、大人から若者にバトンを渡す場としてはどうかといった意見が得られた。

（主な意見）

・非常によいテーマだと思う。県が「ふくしま SDGs 推進プラットフォーム」を設置したように、SDGs の視点は切っても切り離せない重要な視点だと考えている。SDGs を切り口とした「持続可能な地域づくり」をテーマにするのは今の時世にマッチしている。

- ・テーマは良いが、決めるに当たってこの席上に若者がいないということが引っ掛かる。まず若者たちの特徴をどう捉えるのかということがある。自分の世代とは思考が違い、例えばジェンダーバイアスの敷居は随分低くなっているし、多様性は相当認めている。一方で、安定を求め、楽な方がいい、自分を犠牲にしたくないという考え方。そのため一見やる気がないように見えるが、そうではなく、社会問題への関心はあると思う。その一方で「自分なんか」という劣等感のようなものも垣間見える。つながりを求めてること、旅行や研修、学ぶ場など自分への投資ならばお金を払ってもいいと思っていることなども特徴だ。
- ・若者たちをチームにして、「こういうことをやろうと思う。テーマはこんなところまでは決まっていて、我々はこういう想いだ。」と我々の価値観を示し、「君たちはそれについてどう思うか。君たちの価値観もぶつけてほしい。」という場にするのはどうか。価値観同士をぶつけて、新しい価値観を生み出す場、ということだ。「君たちは持続可能な地域は本当に必要だと思うか。」と聞いてもいい。「必要ない。」と言うかもしれないが、必要ないのだとしたら「なぜか」と深堀していく中で、我々と若者との協働のプラットフォームを作っていく。そういう場が必要ではないかと思う。
- ・実践の場のテーマは「我々大人世代と若者は本当にわかりあえるのか」というようなキャッチャーなものがいい。彼らはシャットアウトするのが速い。シャットアウトさせないために我々側に大事なのはひるまないことだ。一方で「君たちの考えを聞きたい」という真っ直ぐなプロポーズが必要だと思う。ストーリーは「いつか君たちにバトンを渡さざるを得ない時期が来る、そのための準備を今始めている。我々が勝手に進めてきたものをあとはよろしくと渡すことはしたくないから、どう取り組んでいけばよいのか君たちと話し合いたい。議論ができる環境を作るから君たちで議論してくれないか。」ということで、大人部会と若者部会に分かれていいと思う。それがクロスしていく瞬間が12～1月の場なのだとイメージした。
- ・今回の「持続可能な地域づくり」というテーマは非常に大きく、未来志向でもあるので、テーマ自体は良いのかなと思う。ただ、大きなテーマで議論するのか、もう少し個別のテーマにフォーカスして議論するのかによって大きく違う。
- ・テーマには賛成だ。SDGsは、学習指導要領の改訂によって小中学校で自由に授業に取り入れができるようになっており、企業のキーワードにもなっている。起業を希望する学生からはSDGsの話も出てくる。社会に貢献するような会社にしたい、私が変えてやるという熱い思いを持った学生がいる。一方で、議論の方向性やフォーカスも必要ではないかと思っている。
- ・Jヴィレッジには若者が多く来るため、サッカーやバスケットボールの団体、地元の高校等への働きかけはできると思う。まずは県内のスポーツ団体の生徒に来てもらうのがいいかと考えたが、県外から来るサッカー団体にも、働きかけができればと思っている。
- ・地域課題は多岐にわたる。12～1月の実践の場においては、大人側が、例えば「労働の問題」を大人から受け渡すバトン・議論のテーマとするのであれば「福島県における男女共同参画はここまで来ている」というふうに、我々の中での今の到達点を真摯に説明し、その上で若者に「どのバトンを君は受け取りたいか」を選んでもらい、それ毎に議論していくという進め方になると、ストーリーとしてわかりやすく、まさに協同思考できるプラットフォームが出来上がるようだ。
- ・若者に渡すバトンは、今まで積み上げてきたものということなのか、その中で生じている現状の課題なのか。課題の方がずっと大きく、若い人たちは課題を議論してほしいと思う。福島だけの話ではなく、地震や原発事故による課題もあれば全国レベルの課題もあり、問題はたくさんある。残念ながら今までの積み上げでは解決できず、むしろ問題が生じてしまった課題を定義して、できればそういうことについて話し合ってもらいたい。

(2) 参画団体について

実践の場に参加していただく団体の候補として、地域の高校や大学の学生団体、市民活動組織、スポーツ団体等があげられた。一方で、実践の場での議論を充実させるためには、興味のある事項などが共通する人を集める必要があるのではないかといった意見も得られ、具体的な参画団体に関しては、第2回意見交換会において具体的な取組案を検討する中で再度検討することとした。

(主な意見)

- ・福島にあるプロスポーツ団体や周辺の高校とは様々なところで関係を持っている。Jヴィレッジの株主はサッカー協会なので、育成年代の代表のキャンプがあるときに時間をもらうなどの働きかけもできるかもしれない。
- ・参画団体を検討する上でも、地域づくりの対象をどこに置いて議論していくかが非常に重要だと思う。12市町村を対象とした地域づくりなのか、それとも福島県全体とするのか。12市町村は人口減少や高齢化、産業の担い手不足など、将来的には全国共通の課題になることが極端なスピードで進んでいる地域だ。12市町村の将来像・地域づくりを考えることで、全国に発信していくものにすれば面白いではないか。
- ・「福島で今やっていることは、そう遠くないうちに君たちの地域でも起こる、だから福島に学ぶことが必要なのではないか」という価値は伝えておいた方がいい。
- ・若者ということであれば、浜通りに限らないがSDGsの取組を一生懸命やっている高校がいくつかある。
- ・議論に参画してもらう団体について、議論が噛み合わないと深まらない。少しづれるとそれ以上入り込めなくなってしまう。ある程度同じような価値や知識を持った人を集めないと、議論がすれ違うと思う。
- ・大人側が気をつけなくてはいけないのは、操りができるだけ排除することだ。若者たちが「参加」ではなく「参画」する環境をどこまで追求できるかは我々側の問題だと思う。
- ・ファシリテーターも若者に務めてもらってはどうか。1泊2日程度でファシリテーターの講習会をするといい。「結論がこうだった」というだけでなく、彼ら自身が学びながらこの取組の中で変わっていくというのも1つの成果だという見せ方もできる。
- ・災害ボランティアの学生団体があり、震災だけでなく災害ボランティアとして活動している。学生の自主組織で、お金も全て自分たちで貯めて活動している。彼らは非常に目的をしっかりと持っている。
- ・フリースクールや不登校の子供たちの市民活動組織を推薦する。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より示したスケジュール案について特段の意見は示されず、参加団体の合意が得られた。

5 閉会

テーマ・取組案、主団体等について合意が得られたため、第2回意見交換会に向け、事務局と主団体において今回議論で挙げられた論点についても配慮しながら、具体的な取組内容の検討を進めることとした。参画団体に関しては、複数の推薦があったため、第2回意見交換会において具体的に取り組み案とともに提示することとし、再度検討することとした。

第2回意見交換会は10月を目指して開催することとし、具体的な日程については、改めて事務局より連絡することとした。

以上